熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 75
2019 WINTER

特集 I
地域再生への道
人と文化を地域の元気に

特集 II
熊大の本棚
あの先生のこんな本、
読んでみませんか？

「龍南」と「龍南会雑誌」の表紙（題字 谷干城）

知の至宝

龍南会雑誌

龍南会は、五高の校友会組織であり、「龍南会雑誌」は、龍南会の雑誌部によって1891（明治24）年11月26日に第1号が発行された。内容は評論や翻訳、文芸作品など幅広く、執筆や編集は生徒が行った。教師も一会員として投稿し、ラフカディオ・ハーンの演説「極東の将来」や夏目漱石が生徒たちと催した俳句結社紫溟吟社（しめいぎんしゃ）の句が掲載されたのもこの誌上であった。

特に巻末に掲載された「雑報」や「部報」の内容は、学校行事や各部の動向、対外試合の結果、生徒個人の動向なども事細かに綴られ、当時の学校生活が生き生きと伝わってくる。

記事中には歴代の雑誌部員が原稿集めに苦労した様子も垣間見えるが、筆を執った部員の中には、後に作家となる下村湖人（こじん）、上林暁（かんばやしあかつき）、江口渙（かんこうかん）、林房雄、梅崎春生（はるお）などそうそうたる顔ぶれが並んでいた。「龍南会雑誌」は彼らが文筆家となるための揺籃でもあった。

雑誌は途中、「龍南」と誌名を変えながら、第二次大戦の戦局が厳しさを増す1944（昭和19）年6月15日付254号まで刊行され中断、戦後は唯一、1948（昭和23）年3月25日付253号[※1]が発刊されたが、これを最後に終刊した。

文　藤本秀子（五高記念館）

「龍南会雑誌」の題字は第19号以降は谷干城（たにたてき）の揮毫による。また、第172号から誌名が「龍南」と改められた。龍南会雑誌の総目次と記事全文は本学附属図書館のホームページに公開されている。

※1 第二次大戦後の混乱により発行号数の齟齬が生じたと思われる。

※五高記念館（国指定重要文化財）は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

熊本大学
Kumamoto University
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
TEL.096-344-2111（代）
https://www.kumamoto-u.ac.jp/
■黒髪キャンパス　■本荘キャンパス　■大江キャンパス

熊大通信 vol.75

2019 WINTER

CONTENTS

03 特集 I　地域再生への道
人と文化を地域の元気に

11 研究室探訪　謎が多い脳疾患の解明に
薬を使ったアプローチで挑む
大学院生命科学研究部（薬学系）
薬物活性学分野
香月　博志　教授

13 特集 II　熊大の本棚
あの先生のこんな本、
読んでみませんか？

17 卒業生ジャーナル

19 KUMADAI TOPICS

22 熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.75

＊皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

［発　行］国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119　Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

［編　集］熊大通信編集委員会
鷲見　直哉／委員長　大学院先端科学研究部（理学系）
安村　　明／大学院人文社会科学研究部（文学系）
松永　拓己／大学院教育学研究科
河野憲一郎／大学院人文社会科学研究部（法学系）
一柳　錦平／大学院先端科学研究部（理学系）
尼崎　太樹／大学院先端科学研究部（工学系）
永田まなみ／大学院生命科学研究部（保健学系）
首藤　　剛／大学院生命科学研究部（薬学系）
立山　三雄／総務部総務課広報戦略室長

［制　作］株式会社 談

表紙 ／【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授
阿蘇外輪山より阿蘇カルデラ一帯を望む

熊大生、拓く。
学生の元気を、地域の元気に！

2019 年 9 月 23 日・24 日に行われた阿蘇市「手野集落の未来を共に創るプロジェクト」は、熊本大学と熊本県立大学の学生が協働で取り組む COC のプロジェクト。熊本大学は、ボランティアグループ D-SEVEN の学生が参加し、昔ながらの手作業と機械作業での稲刈りを体験した。その後はお米の商品化についてパッケージデザインなどのアイデアを議論した。

特集Ⅰ

人と文化を地域の元気に

大学の研究成果や人材を地域課題の解決、地域活性化につなげよう―。熊本大学では、そんな思いのもと、さまざまな地域との連携を積極的に行っています。

その成果は、地域の子どもたちとの交流、高齢化に対応した地域づくり、地域の歴史や文化の再発掘など、地域にさまざまな影響を及ぼし、元気な地域、人づくりにつながっています。

今回の特集では、特に地域の人との交流、文化の掘り起こしを行っている研究者を取り上げ、地域に開かれた熊本大学の姿をご紹介します。

あらゆる話を
掘り起こす民俗誌調査
地域づくり、そして

**再生の
きっかけに**

水で結ばれた
地域社会を浮き彫りにし

**社会の変化を
正確に
理解する**

連携協定を結び、
被災地へ学生を派遣
地元大学だからできる

**「息の長い
支援活動」**

地域再生への道

地域再生への道

連携協定を結び、被災地へ学生を派遣 地元大学だからできる「息の長い支援活動」

テクノ仮設団地学習会・語らい

2019年4月18日、益城町交流情報センター「ミナテラス」において、益城町教育委員会、NPO法人カタリバ、そして熊本大学教育学部の三者連携協定が締結。益城町の小中学生の学習支援を行う「教育学部ましきプロジェクト」がスタートしました。

被災地の学習支援継続に教育学部が参画

協定を締結した三者のひとつ、NPO法人カタリバは、被災地の子どもたちなどに対する教育支援を行う東京の団体として知られており、熊本地震直後から益城町でも活動を行ってきました。しかし、近年頻発する日本各地の災害対応も必要なため、熊本大学教育学部がマネジメントを引き継ぎ、今後も益城町での学習支援を継続させていくことが、ましきプロジェクトの目的です。「カタリバにはノウハウがあるし、カタリバのスタッフのお一人が益城町教育委員会の職員として残り、大学とのつなぎ役もやってくださっています。大学とNPOがともに教育委員会と連携協定を結ぶのは珍しい形ですが、学習支援をしっかりと継続させていきたいと考えています」と話すのは、八幡英幸教育学部長です。活動の資金面においても、熊本大学基金で寄附を募るほかに、カタリバがクラウドファンディングなどの新しい手法で資金を集めるなど、その「機動力」が大いに発揮されているそうです。

息の長い支援活動の中で子どもたちの成長を見守る学生たち

熊本地震から3年半という月日が流れましたが、熊本全体が復興を終えたとはまだ言えません。「益城町では、親が生活再建で苦労している中で、無理をしている子どもたちがいます。また、小学校中・高学年という、家庭での学習習慣を身につける時期に被災し、落ち着いて勉強できる環境がなかった子どもたちもいる、と聞いています。今は、支援が少なくなりつつある状況。取り残された感を与えないよう、支援を継続させていくことが大事です」と八幡学部長は話します。

プロジェクトでは、熊本大学教育学部や大学院教育学研究科、そして熊本学園大学の学生らが、益城町のテクノ仮設団地および木山仮設団地での学習会、益城中学校と木山中学校でのテスト前学習会に、ボランティアで参加。「先生」にはなかなか言えないことも、年齢が近い学生ボランティアには、子どもたちも気兼ねなく話ができ、学習会の後はお菓子を食べながら楽しく過ごすことも。学習支援に3年以上かかわっていて、「こんな人に教師になってほしい」と思うしっかりした学生もいるそうです。

教育学部は教員養成の場であるとともに、地域に開かれた教育や研究の拠点でなければならないと八幡学部長。「そのためには、こちらから地域に出て行って、対話しながら、一緒に活動しながら、地域の教育ニーズに応えていく必要があります」。ましきプロジェクトでも、地元教育委員会と連携し、子どもたちの成長を見守る学生たちを派遣し続けています。そして、教育の道に進みたいと考えている人へ、「教育は今どんどん変わりつつあって、大人も悩んでいます。若い人たちには、新しい時代の教育や子育てのあり方を、ぜひ一緒に考えましょうと伝えたいですね」と話してくれました。

連携協定調印式(益城町ミナテラス)

教育学部ましきプロジェクト説明会ポスター

仮設団地学習会開始のお知らせ

教育学部長　八幡 英幸
YAHATA Hideyuki
1995年京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。2009年より熊本大学教育学部教授。2016年より教育学部長。専門は哲学、倫理学。

地域再生への道

あらゆる話を掘り起こす民俗誌調査 地域づくり、そして再生のきっかけに

坂梨での実習にて行った牧野（ぼくや）の踏査

民俗学を専門とし、これまで日本各地で様々な民俗誌調査を行ってきた山下裕作教授。地域住民から、暮らしや生業、歴史など様々な話を掘り起こす民俗誌調査は、「途絶えていた地域活動を復活させるなど、地域住民の主体的行動につながるきっかけづくりにもなる」と話します。

学生たちも、実習で民俗誌調査に参加

山下教授のもとでは毎年2年生によって、学生実習としての民俗誌調査も行われています。今年度の調査地域は阿蘇市の坂梨（さかなし）地区。「阿蘇における民俗誌調査といえば、やはり放牧。牛馬とともにある農業や、火山性土壌をどうやって封じ込めて農業が営まれてきたのか、住民が手と足を使って行ってきたことを中心に聞き取り調査を行いました」。古い話ばかりではなく、「例えば、イタリアンライグラスやギニアグラスなどの牧草が導入された近代的農業も今の住民の皆さんが営んできた歴史であり、文化的価値があります」。

8月下旬、学生たちは3泊4日で坂梨の公民館に滞在し、集落長や草原保全を行っている方、郷土史家の方などに聞き取りを実施。水が豊かな阿蘇ですが、坂梨では古くは水の確保に苦労し、水稲ではなく陸稲が多く栽培されていたこと、火山灰が降るために共同で水路掃除を行ってきた歴史などが掘り起こされました。そのほかに、桜が咲くころ、桜の木に馬の生首のお化けが下がっていたのを目撃した、といった不思議な話も聞くことができたそうです。

住民の主体的行動を促した聞き取り調査

民俗学について山下教授は、「その土地の生業はもちろん、人々の暮らし、そして妖怪や幽霊話も、熱心にその話をする人がいるならばそれに耳を傾け、目の前にあるすべてを学問の対象にしていきます」。民俗学者の柳田國男の言葉「経世済民」を挙げ、世の中を知り、世の中を良くするための学問が民俗学だと言います。基本は羅列であり、いろいろな話を集めてたくさん並べ、その中に筋を通していく。2つや3つの話で論理は立ちませんが、2千、3千と集めて論理を立てれば、思わぬことが見つかってもその論理は揺らがないと山下教授。「たくさん集めて並べてドン！みたいなところがありますから、学生にとっても楽しいと思いますよ」。

そんな中で学生たちは、世代の違う人とのコミュニケーション力を磨き、さらには、こんな話が聞きたい、こんな発見をした、などという「主体性」も養います。「だからうちは就職もいい。この10年で20人以上が公務員になりました」。

加えて民俗学では、調査する側が現場に出向き、住民に問いかけて様々なことを思い出してもらう必要があります。それが住民にとって、自分たちが暮らしをどう営んできたのかを改めて見直す機会となるだけでなく、「住民の主体的な行動につながるきっかけを呼び起こせます」。山下教授が熊本大学赴任前 農林水産省の職員として島根県の過疎化地域調査で聞き取りをした時は、住民たちの間に約40年ぶりとなる川掃除が復活。さらには、川から見えた耕作放棄地をなくす動きにもつながったそうです。「民俗誌調査は、長期的な地域づくりワークショップと同じような効果がある。それは、地域に対する大きな貢献だと思います」。

鹿本の小川で実施した子どもの遊び調査（体験）

高森町尾下で行った祭礼調査

西原村で行った用水路の生態調査

インドネシア（ジャワ島ウォノギリ地区）での調査

大学院人文社会科学研究部（文学系）
教授　山下 裕作
YAMASHITA Yusaku

1996年筑波大学大学院歴史・人類学研究科東洋史学専攻修了。農林水産省中国農業試験場等を経て、2010年に熊本大学へ。主な研究テーマは日本民俗学、農業農村工学（計画分野）、農業経営学。

地域再生への道

水で結ばれた地域社会を浮き彫りにし社会の変化を正確に理解する

「水で結ばれた社会」の調査が始まった柳川市。掘割保全活動の変化を調査

牧野厚史教授が行っているのは、「水で結ばれた社会」の調査研究。福岡県柳川市から始まった水社会研究の一環として、昨年は、有明海沿岸域にある佐賀県のノリ養殖地域で調査を行いました。「水でつながる地域社会」を柱に、人の暮らしと地域の変化を理解する研究の大きな目的は、「地域社会における持続可能性の追及」です。

持続可能性を高める「人を楽にする技術」

佐賀県で行われたノリ養殖地域の調査では、生産、加工、出荷まで家族経営という特徴をふまえ、「女性に焦点を当てた」と牧野厚史教授。「ノリは海の干満時間に合わせた作業が必要で、家族の世話や家事も行う女性が、現代的用語で言えば、ワークライフバランスをどうしているのか、それを知りたかったからです」。

ノリ養殖の業界は技術革新がめざましく、養殖場へ船で向かうにはGPSを活用、摘み取りは機械化され、摘んだノリは自動で加工場まで運ばれます。「女性たちから聞こえてきたのは、楽になった、という言葉。ノリは、有明海の水産業の中ではいいビジネスなのですが、それでも、働きやすく暮らしの充実を図ることができる仕事でなければ持続しません。生産性を上げる技術も必要ですが、人を楽にする技術によっても、持続可能性は高まっていくと思いました」と、調査を振り返ります。

足元を考えることは世界を考えること

この調査は、数年前から行われている福岡県柳川地域も含めた、水で結ばれた地域社会研究の一環です。川の上流と下流の地域は密接につながっており、「自然科学の中に、水質保全や環境保全を目的とした、水を中心とした物質循環の研究があり、私はそこに、水でつながる人間関係の研究を車の両輪のように並び立たせたいと考えています」。

高度成長期前後から私たちの暮らしは大きく変わりましたが、「その変化は、社会科学として共有されていない。良い面も悪い面もある変化が、何を理由にどうやって始まったのか、正確に把握する必要があります」。古くは、子育ても教育も、福祉さえも村社会の中でしっかりと機能していました。そんな地域社会は現代において機能を失っていくと考えられていましたが、近年の自然災害の増加は地域のつながりの重要性を再認識させ、地域社会にまた変化が生まれています。

「ひょっとしたら、地域社会の変化は振り子のように揺れているだけかもしれません。行き過ぎたら少し戻るのかもしれない。その戻る場所が大切で、地域の人々がこれまで、何をどう機能させてきたかを、きちんと調べておく必要があります」。

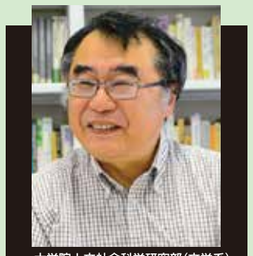
調査研究で積み上げられた情報は、「日本各地の地域に当てはまるのではないかと考え、日本、そして世界に向けて発信します。その情報が、地域の方々と政策立案をする人たちの材料になればいいと考えています」。

この研究において、「地域から学ぶ」ことは非常に多いと牧野教授。「高校生のような若者も地元についてはエキスパート。知っている、ということはとても価値のあることです。足元にあることを考えることが、実は世界について考えることだったりする。足元にあるおもしろさをぜひ見出してほしいと思います」とメッセージをくれました。

佐賀県でのノリ養殖に携わる人への聞き取り調査

ノリの養殖に関する調査は佐賀漁港周辺で実施

有明海に注ぐ嘉瀬川上流にある嘉瀬川ダム周辺でも調査を実施



大学院人文社会科学研究部（文学系）
教授　牧野 厚史
MAKINO Atsushi

関西学院大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程後期課程修了。琵琶湖博物館を経て2011年に熊本大学へ。主な研究テーマは村落と環境。

研究室探訪
Laboratory Report

大学院生命科学研究部（薬学系）
薬物活性学分野

香月　博志 教授
KATSUKI Hiroshi

謎が多い脳疾患の解明に
薬を使ったアプローチで挑む
―考える力、次に進む力を与えてくれる研究室です！

学生が見た！

香月研究室 3つの特徴

1 研究テーマ
様々な脳疾患のメカニズムと、治療薬を見つけることが大きなテーマ。病態のモデル動物を丸ごと作製したり、培養細胞を使って研究しています。

2 朝のセミナー
週3回、1限目前の7時40分から。当番の学生が文献を紹介したり研究の報告を行います。

3 先生
何を聞いても答えてくれるすごい先生。朝のセミナーは必ず1分前に着席。これが狂ったことはありません！

Lab's Data

□ 卒論・修論・博論テーマ
- 脳内出血病態モデルに対するNurr1リガンドの治療効果
- ドパミン神経障害に対するターメロン誘導体の保護効果
- 筋委縮性側索硬化症関連遺伝子変異によるタンパク質分解障害
- ニコチンによるNa^+, K^+-ATPase活性調節とその生理的意義
- 精神症状に対するメマンチンの作用解析
- ミクログリア活性化におけるDNAメチル基転移酵素の役割
- グルタチオン生合成を介するドパミンニューロン保護機構

など

□ 就職先
- グラクソ・スミスクライン（株）
- ノボノルディスクファーマ（株）
- 田辺三菱製薬（株）　・久光製薬（株）
- 参天製薬（株）　・（株）三和化学研究所
- 薬剤師（済生会熊本病院、熊本赤十字病院、福岡和白病院など）

など

□ メンバー
香月博志教授、関貴弘准教授、倉内祐樹助教
- 博士後期課程3年1名、2年1名
- 博士前期課程2年3名、1年2名
- 薬学科6年2名、5年2名、4年2名、3年2名
- 創薬・生命薬科学科4年3名、3年3名

＼先生 interview／

香月 博志　教授

薬を使って病態を解明
薬理学ならではの研究です

脳疾患という大きなテーマの中で脳出血、小脳の変性疾患、精神疾患等の様々な研究を進めており、学生もそれらに関わる研究をしています。薬理学研究室なので、薬を使って脳の組織や細胞の反応を引き出すことで病気のメカニズムを調べるアプローチが特徴的です。

実験は結果を予測して行いますが、細胞や動物を直に観察していると、予測しなかったことも見つかります。しかし、予測と違ってもその結果が「事実」であり、結果をどう考えるかが大事。そこから次の研究を組み立てる、そんな考察力を学生には身につけてほしいと思っています。

薬学科4年
吉水（よしみず） 文香（あやか）さん

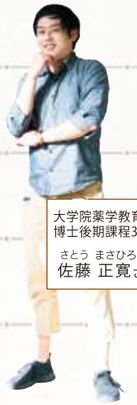
先輩たちがやさしく教えて下さり実験の手技も上達できました

―なぜこの研究室に？

薬理学の授業で、香月教授や関准教授の授業を聞いて脳疾患の分野に興味を持ちました。将来は薬剤師志望で、臨床的な経験は卒業してからでも積めますが、大学生のうちにしかできない基礎研究に携わりたいとこの研究室を選びました。現在は、脳内出血のモデルマウスを作製し、治療薬を探索するという研究を進めています。モデルマウスを正確に作るための手技の獲得に時間がかかりましたが、和気あいあいとした研究室で先輩方がやさしく教えて下さり、1年が経って実験が楽しくなりました。

―どんな毎日ですか？

朝はセミナー、そのあと午前中は授業です。授業では現在、来年の薬局と病院実習のための試験に向けた勉強をしています。その後、午後から実験に取り掛かるので遅くまでかかるときもありますが、自分で実験を組み立てて取り組むので、自分の時間もしっかり作ることができます。



大学院薬学教育部
博士後期課程3年
佐藤（さとう） 正寛（まさひろ）さん

もっと研究をと博士後期課程へ
いつか、新しい治療薬を開発したい

―なぜ博士後期課程に進学を？

博士前期課程でも恵まれた環境で勉強や研究を行いましたが、まだ足りないと感じたからです。この研究室に入ったのは、アルツハイマーやパーキンソン病など、たくさん研究が行われているのに今も有効な治療薬が開発されていないことに難しさを感じ、その研究に自分も携わりたいと思ったから。香月研究室の朝のセミナーで聞く先生方の話は、かなり勉強になると実感しており、博士後期課程でもこの研究室に残りました。現在はタンパク質分解系をテーマに、神経変性疾患をからめた研究を進めています。

―どんな研究室ですか？

幅広い年齢のメンバーがいるのにコミュニケーションが密で、スポーツイベントなどに積極的に参加する活発な研究室です。また香月教授は、研究や実験に対する姿勢はもちろん、普段の過ごし方もお手本になる先生。将来は自分も、新しく有効な治療薬の開発に携わりたいと思っています。

密着！香月研究室

細胞内のシグナル伝達に関わるタンパク質の挙動解析の様子

毎年夏に開催している研究室旅行

7つの学部のほか、
多くの大学院・研究所・センターなどを有する熊本大学。
ここでは、多くの研究者がユニークな専門分野を追究し、
最先端の研究を進めています。

そんな幅広い研究成果の一端を知ることができるのが、
研究者が執筆した著書の数々。
専門知識がわかりやすく紹介されており、
誰でもさまざまな発見が得られます。

今回は、熊本大学附属図書館に所蔵されている著書の中から、
図書館TA（ティーチング・アシスタント）などの学生が
おすすめの本をご紹介します！

あなたも、新しい世界を広げてみませんか？

特集Ⅱ

熊大の本棚

あの先生のこんな本、読んでみませんか？

大学院自然科学教育部
工学専攻博士後期課程１年
佐藤允彦（さとう みつひこ）さん

大学院自然科学教育部
土木建築学専攻博士前期課程１年
古賀聖人（こが まさと）さん

大学院自然科学教育部
工学専攻博士後期課程１年
龍　輝優（りゅう てるまさ）さん

大学院社会文化科学教育部
文化学専攻博士前期課程２年
中島駿介（なかしま しゅんすけ）さん

大学院自然科学教育部
理学専攻博士前期課程１年
岩本朝希（いわもと あさき）さん

森の案内人と森を歩く

建築の森・熊本を歩く

著　　者　田中智之（大学院先端科学研究部（工学系））
出 版 社　彰国社
出 版 年　2018年
（初版発行年）

本書籍は熊本を「建築の森」と称し、70件の建築物を色や構造、窓、境界、素材など35のテーマに分け、建物の構造や内部を細やかに描く著者独自のドローイングによって紹介している書籍です。

建築学を専攻している学生なら田中智之先生の授業を受けたことはあると思います。かくいうわたしも学部1～4年次でお世話になっています。

一般的に問題を解決するとき「物事を多面的にみること」が大事と感じており、建築においても変わらないと思います。本書籍は「建築を多面的にみること」の大切さを教えてくださいます。建築をテーマごとに分類する書籍は多くありますが、先生の本はなぜか頭にすうっと入ってくるのがほかの書籍と違うところだと思います。それは「タナパー」と呼ばれる田中先生独自のパース表現と丁寧で的を射た文章表現だからかもしれません。また、紹介されている建築・土木構造物は全て熊本にあるものなので、この本片手にフィールドワークをすると一層理解が深まると思います。熊本で建築を学ぶ学生は必須の1冊だと思うのでぜひご一読ください！

古賀聖人

日本は災害大国であるが、資源大国でもある

ジパングの海 資源大国ニッポンへの道

著　　者　横瀬久芳（大学院先端科学研究部（理学系））
出 版 社　講談社＋α新書
出 版 年　2014年
（初版発行年）

本書では、日本列島を黄金の国ジパングたらしめた地質学的背景に関して検討し、将来において鉱物資源豊かなジパングが復活できるかどうかを探っています。そのうえで、私は著者が日本では先駆的に、新たなフロンティアである日本列島の海底部分を実際に調査し、日本の排他的経済水域内における資源ポテンシャルについて議論していることが非常に興味深いと感じました。日本は複数のプレートがぶつかり合う世界でも珍しい地質環境であり、それ故に火山噴火や地震活動が多発しているため、これまでに多くの尊い犠牲を払ってきました。しかし、このような危険な日本列島を、我々の祖先は見捨てることなく、なぜそこに住み続けたのか。それは日本列島を構成する地質帯は、数億年間もプレートの境界であり続け、自然災害の巣窟であるとともに、金属鉱物資源の生産の場であり続けたからです。日本列島は、火山と地震を原動力として得られた鉱物資源を足掛かりに発展してきた国なのです。本書は地学・海洋学を学ぶ学生は勿論、日本という国の在り方を考える学生に是非お薦めしたい一書です。

龍　輝優

「悲劇」と一線を画した踏絵像を描き出す

踏絵を踏んだキリシタン

著　　者　安高啓明（大学院人文社会科学研究部（文学系））
出 版 社　吉川弘文館
出 版 年　2018年
（初版発行年）

我々は「踏絵」という言葉に抑圧や受難の歴史というイメージを抱きます。一方で我々のこうしたまなざしは、現代の価値観や固定観念に根差したものであることは否めません。では、江戸時代を生きた人々にとっての踏絵、当時の社会における踏絵とはいったいどういったものなのでしょうか？キリシタンは本当に踏絵を踏まず責め苦を受け入れていたのでしょうか？

本書ではこれまで語られていたような「悲劇史」とは異なる、制度や法制といった視点から、踏絵の実相を検討しています。また、本書は豊富な史料に根差した堅実な研究でありながら、日本史の予備知識がない読者でもつまずくことなく読めるよう、噛み砕いた説明がなされています。キリストの姿を映した「踏絵」を通して、行政の動きや政治的やり取り、法の施行の実態、人々の反応など当時の日本社会のありようや、その枠組みの中で生きたキリシタンたちの強かさがありありと浮かび上がります。固定観念から離れて近世社会の実態を覗くという、高校までの歴史とは違った、大学で学ぶ学問としての歴史学の醍醐味が詰まった一冊です。

中島駿介

名作映画から病気、人生観を学ぶ

映画に描かれた疾患と募る想い ― 安東教授のシネマ回診

著　　者　安東由喜雄（元大学院生命科学研究部（医学系））
出 版 社　医歯薬出版株式会社
出 版 年　2017年
（初版発行年）

この本は、名作から最近の話題作となった映画やそこに登場したり関連したりする病気を医学的な視点で語るエッセイ集です。生命倫理、終末期医療、恋愛論、人生観まで語られるとても刺激的な一冊です。

この中の一節に2015年に公開した大ヒット映画「ジュラシック・ワールド」についてのエッセイがあります。過去作「ジュラシック・パーク」で描かれた騒動がありながら今作のジュラシック・ワールドで新種の凶暴な恐竜を遺伝子融合により作り出してしまうというストーリーは、遺伝子操作されたものの生体に与える影響や過去の惨劇から人間は学ばなければならないということを考えさせられます。少し重い内容に思えてしまいますが、エッセイなので堅苦しい文章ではないし、ティラノサウルスの走る速度は陸上トップアスリートにはかなわないなど驚きの記述もありますので、非常に楽しく読むことができます。他にも国内外に関わらず様々なジャンルの映画が取り上げられていますので、自分の好きな映画なら新しい視点から楽しむことができますし、知らない映画であれば一度見たくなるはずです。

岩本朝希

学び続けるとは

まんがで知る 教師の学び これからの学校教育を担うために

著　　者　前田康裕（大学院教育学研究科）
出 版 社　さくら社
出 版 年　2016年
（初版発行年）

本書は、学ぶということに焦点を当てて論じられています。まず、学校教育における教育技術について、次に、多様化していく社会に教育者がついていくためにはどうすればいいのかということについて紹介されています。本書における重要な点は、自分なりの考えを持ち、強みを見つけ多角的な視野を持つということです。それによって他者の秀でている部分や足りない部分を見つけることができ、そこからお互いに学びあうということができます。そして、変化する社会についていくために、一つの考えにとらわれることなく新しい知識を取り入れていく必要があると考えさせてくれる本です。本書のタイトルには学校教育と書いてありますが、異業種の方でも、他の人を指導するという観点から参考になると思います。大学生だけでなく、スマートフォンなどの新しい機器を使うのが嫌だという方にも是非読んで頂きたい本です。また、研究室やサークルなどで指導する立場になり、どのようにすればいいのかわからないという大学生には、今後の人生で必ず役立つと思うので読んで頂きたいです。

佐藤允彦

人生の悩みに哲学者の思考が手助けになる！

子どもの頃から哲学者 世界一おもしろい、哲学を使った「絶望からの脱出」！

著　　者　苫野一徳（大学院教育学研究科）
出 版 社　大和書房
出 版 年　2016年
（初版発行年）

この本は、著者の苫野一徳准教授の半生を描き、その中で哲学に衝撃を受けたり生き方の役に立ったりしたことやエピソードを語りながら、「哲学は、役に立つ」ことを伝えてくれます。

誰にでも「自分は必要とされる存在なのだろうか」と孤独を感じた経験はないでしょうか。解決策も思い浮かばないようなどうしようもない不安感ですが、哲学者たちはその問題に取り組み、答えを導き出しました。そんな哲学者たちの思想や哲学史がこの本で紹介されています。これまでに哲学を学んだことがない人にとってもわかりやすいように紹介されていて、著者の半生にどんな影響をもたらしたのかというストーリーも読みやすくとても面白いです。私自身も名前だけは知っているような有名な哲学者がこんなことを考えていたのかと驚き、感銘を受けました。この本を読んだ方自身の問題を解決するヒントにもなったり、今後の人生で孤独や生きづらさを感じ不安に思ったときに、哲学者たちの思考が手助けになってくれることもあるのではないでしょうか。

岩本朝希

卒業生ジャーナル
GRADUATES' JOURNAL

本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍している
先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦労、
そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

薬 薬剤師として勤務しつつ多職種とのチームで地域医療に奮闘

渡邉　恵美
WATANABE Emi

垂水市立医療センター　垂水中央病院 薬剤室
（鹿児島県）

薬学部薬学科 平成25年3月卒

昭和63年宮崎県都城市出身。宮崎県立都城泉ヶ丘高校から熊本大学薬学部薬学科へ。卒業後約1年間バックパッカーとして35カ国を旅し、帰国後に現在の病院へ就職。現在、2児の子育てに奮闘しながら、病院薬剤師として地域医療に携わっている。

熊大のココがイイ！

いろいろな学部の方と交流をもつことができ、遊びも学びも全力投球できること。

オープンキャンパスで薬学部へ。「ここだ！」と直感

特に明確な夢があった訳ではありませんが、幼い頃から「資格を取りなさい」と言われて育ちました。学力的に薬学部への進学を志望しており、オープンキャンパスで熊本大学薬学部を訪れたとき「ここだ！」と直感的に思い、本格的に目指すようになりました。

国際医療に興味。インドでボランティア、スーダンでは見学も

女子サッカー部に所属し、黒髪と大江を行き来していました。国際医療にも興味があったため、インドのマザーテレサの家でボランティアをしたり、スーダンでNPOロシナンテスの活動を見学させて頂いたりしました。研究室で朝から晩までひたすら実験をしたのもかけがえのない時間でした。

栄養サポートや褥瘡（じょくそう）予防対策、緩和ケアチームにも所属

現在は鹿児島県の垂水中央病院で薬剤師として勤務しています。地域で唯一の有床病院であり、垂水市の中核病院となっています。私は、NST（Nutrition Support Team＝栄養サポートチーム）委員会・褥瘡予防対策委員会・緩和ケアチームに所属し、多職種の方々と連携しながら地域医療に取り組んでいます。

工 学生時代から専門の「熱」を中心に教育と研究に勤しむ毎日

秀山　文彦
HIDEYAMA Fumihiko

熊本県立技術短期大学校
機械システム技術科　講師

大学院自然科学研究科 博士前期課程
機械システム工学専攻
平成28年3月修了
大学院自然科学研究科 博士後期課程
産業創造工学専攻 先端機械システム講座
平成31年3月修了

平成3年生まれ。長崎県雲仙市出身。有明工業高等専門学校を卒業後、同校専攻科を修了。大学院時代は熱工学研究室に所属し、特に熱を輸送する機器（ヒートパイプ）の研究に従事。趣味はスポーツをすること。

熊大のココがイイ！

歴史ある建物に囲まれ、最先端の科学技術を学べる。中心街にも程よく近く、勉強と遊びが両立できる。

高専で出会った恩師が、教員を志すきっかけに

中学校を卒業し、ものづくりに興味があったため高専に進学しました。進学した高専で出会った恩師に感銘を受け、私自身も人の夢を応援できるような教育者になりたいと思い、高専を卒業する頃から教育者になる夢を持っていました。

研究そして、国際学会や留学で経験した、多くのことが今の私の糧

大学院時代は国際学会発表や留学を経験させて頂き、海外に興味を持ちました。海外に行った際には、日本では経験できないことに重点を置き、多くのことを経験しました。研究では、夜まで実験と検証の毎日でしたが、その経験が今の私の糧となっています。学生時代はやりたい事にチャレンジできるとてもいい期間だったと思います。

機械にとって切り離せない「熱」。社会を築く学生に役立つよう試行錯誤

熊本県立技術短期大学校の機械システム技術科で教員として勤務し、学生時代から専門としている「熱」を中心に教育、研究を行っています。「熱」は機械にとって切り離すことのできないものであり、将来の社会を築く学生の知識の一部になるよう、日々試行錯誤をしています。

教 大学時代の研究も活かして、常に生徒のためにより良い授業を模索

長尾　彬永
NAGAO Akihisa

熊本県立八代工業高等学校 教諭

教育学部 中学校教員養成課程
保健体育専攻
平成25年3月卒

平成2年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本北高等学校卒業。卒業後は、熊本県立苓洋（現天草拓心）高等学校、熊本県立東稜高等学校を経て現任校。夢は1人でも多くの生徒に出会ってよかったと思ってもらえる教師になること。

熊大のココがイイ！

やりたいことをやらせてくれて、それを先生方が全力でサポートしてくれる。

高校の担任の言葉が、高校教師を目指すきっかけに

高校生の頃は臨床心理士になるのが夢でした。しかし3年生の時、センター試験で点数がとれず落ち込んでいた際、担任の先生から「教師だって生徒の不安や悩みをたくさん聞く。特に進路指導は生徒の一生に関わる。高校教師もやりがいがあるぞ」と言われたのがきっかけで、高校教師を目指し始めました。

常に仲間と行動した大学生活。本気でやった経験は今に生きている

学科の仲間、部活の仲間と常に行動を共にした大学生活を送りました。空き時間は生協で大富豪ゲームを6時間やったこともあります。朝まで飲んだり、海やキャンプに行ったり、みんなで模擬授業をしあったり。とても充実していました。水泳部では主将を務め、達成感、感動など本気で打ち込んだからこそ得られた経験も現在に生きていると思います。

初任校で出会った先生方から「教師のあるべき姿」を教えられた

初任校でお世話になった先生方から教師としてあるべき姿や考え方を教えて頂きました。特に「生徒のために教師が頑張る」、「体育教師だからこそ何でもできなきゃいけない」を指針に頑張っています。教科保健体育では、ゼミでも研究していた「授業における言語活動」を中心に日々よりよい授業を模索中です。

文 海外メーカーからの部品調達を担当日本のものづくりを、世界へ

満尾　有紗
MITSUO Arisa

株式会社クボタ（大阪府）

文学部コミュニケーション情報学科
平成31年3月卒

平成7年生まれ。鹿児島県奄美市出身。鹿児島県立加治木高等学校卒業。大学3年次に「トビタテ！留学JAPAN」4期生として英国リーズ大学で1年の交換留学を経験。熊本大学文学部を卒業後、大阪へ。

熊大のココがイイ！

歴史と緑あふれるキャンパスで、個性豊かな先生・学生たちとのびのび学べる環境があるところ。

奄美と世界をつなげる役割を担いたいと思い続けて

高校時代は、この職業に就きたい、というものはありませんでしたが、出身地である鹿児島・奄美と世界の人々をつなげる役割を担いたいと思い続けていました。高校2年生の時に、英語に力を入れている、地域に根ざしている、興味の幅を広げられる、という、3拍子そろった熊大のコミュ情の存在を知り、「絶対に学びたい！」と受験を決めました。

部活、留学、貴重な出会い。宝となる人脈も得た大学時代

インカレを経験した部活動、1年間の英国留学、人生を変える出会いがあったゼミ活動。やりたいことをやりつくした大学生活でした。特に大学から始めたチアリーディングは、練習量の多さに苦労もありましたが、様々な学部から集まった同期、先輩後輩たちと一つの目標に向かって汗を流し、一生の宝ともいえる人脈と経験を得ることができました。

国際情勢が仕事に直結。毎日、発見と学びがある

現在は、海外のメーカーから製品に必要となる部品を調達する業務を担当。日本のものづくりを支え、世界に発信したいという思いから現職にいたります。テレビの中の出来事でしかなかった国際情勢が仕事に直結することに驚き、毎日新たな発見や学びがあります。社会人一年目として奮闘する日々です。

医 将来は、熊本の小児医療の充実と発展に貢献したい

加納　恭子
KANO Kyoko

埼玉県立小児医療センター　集中治療科
（埼玉県）

医学部医学科 平成23年3月卒

昭和61年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高等学校から熊本大学へ。初期研修後に熊本大学小児科へ入局し、熊本県・宮崎県で小児医療へ携わる。趣味は旅行やカフェ巡り。

熊大のココがイイ！

大学卒業後も先輩・後輩・仲間とのつながりが強く、様々な場面で応援していただき心強く思っています。

ボランティア活動などを通して、医師への道を考え始めた

高校入学当時は、心理カウンセラーになりたくて大学進学を目指していました。しかし、高校時代にボランティア活動を始めたことや、両親が病院にお世話になる機会が多かったことから、様々な医療者と出会い医師を目指すようになりました。

法医学研究、フットサル、バイトに旅行と充実の大学時代

大学の基礎演習で法医学研究室に配属になったことをきっかけに法医学に興味を持ち、在学中は研究や実臨床にも参加させていただきました。また部活は、フットサル部に入部して他学部や社会人チームと練習。そのほかにも、アルバイトや旅行など充実した大学生活を送りました。

小児集中医療分野に興味とやりがい。現在の施設に移って勉強中

卒業後は、熊本県内を中心に各小児医療機関で働き、幅広く小児医療を学びました。その中で小児集中治療分野に興味とやりがいを感じ、現在の施設に移って勉強しているところです。今後は熊本の小児医療の充実化や発展に少しでも貢献できたらと思っています。

理 自動車関連の先行研究開発プロジェクトに従事

松村　太一
MATSUMURA Taichi

株式会社アルトナー（大阪府）

理学部理学科数学コース
平成29年3月卒

平成6年生まれ。熊本県八代市出身。熊本県立八代高等学校から熊本大学に進学し、株式会社アルトナーに入社。趣味はスポーツ観戦。

熊大のココがイイ！

尊敬できる先生方がおられる、真剣に学ぶことができる所です。

理数系が好きで、入学後に専門を選べる熊本大学理学部を志望

高校生の頃は特にこれといった目標がなく、進路に悩んでいました。しかし、理数系が好きだったので、興味・関心を活かした仕事に就きたいと思い、入学後に進路を選択できる一学科制の熊本大学理学部への進学を決めました。

4年生で研究室配属。勉強とセミナーを通じてエンジニアに興味

大学時代は、3年生までは授業とアルバイトに取り組む日々でした。4年生になり、研究室に配属になってからはセミナーの勉強を行いながら、就職活動を通じてエンジニアとして業務を行うことに興味を持つようになりました。

スキルアップを目指し、業務に加え、資格取得の勉強も

卒業後は、会社の研修施設でソフトウェアの研修を受け、現在は、大阪府内で、自動車関連の先行研究開発プロジェクトに、エンジニアとして関わっています。日々の業務に加えて資格取得に向けた勉強に取り組んでおり、スキルアップを図っています。

法 アフリカ・ガーナの小さな村で村民の生活向上を支援

古閑　修希
KOGA Shuki

JICA青年海外協力隊
2018年4次　コミュニティ開発隊員
（ガーナ）

法学部法学科
平成29年9月卒

平成6年生まれ。韓国出身。小・中・高校を韓国で卒業し、熊本大学法学部入学。大学時代にボーランド経済に興味を持ち、ポーランド・ワルシャワ大学経営学部へ1年間留学。大学卒業後、日本の民間企業へ就職、ボランティアの参加のため退職。

熊大のココがイイ！

立地の良さ（熊本市内にある）、様々な分野の講義が履修できるところ。

子どもの頃から「人のために」。弁護士を目指して法学部へ

幼い頃から漠然と人のためになる仕事がしたいと思っていました。高校時代にDVや非行少年問題に興味を持ち、法的知識を用いて、児童・女性など社会的弱者を助ける弁護士になりたいと思い、法学部へ進学しました。

興味ある分野を学ぼうと、成績や単位はあまり考えず履修

大学では興味のある分野の勉強をしようと思っていたので、成績や単位はあまり考えず、ロースクールや経済学のゼミにお邪魔したり、西洋音楽の授業を履修したりしました。出欠を確認しない授業でも「遅刻はしても欠席はしない」ということを心掛けていたので、欠席しませんでしたが、よく遅刻していました。平日は授業とアルバイト、週末は菊池の実家に帰るルーチンでした。今振り返ると、もっと勉強すればよかったと思います。

アチュワ村の評議会に所属。農家支援や医療施設立ち上げ活動も

人口1,000人ほどの、ガーナ・セントラル州にあるアチュワ村の評議会に所属し、村人を対象にした所得向上・生活改善のための活動を行っています。具体的には、パイナップル農家の農地拡大のための支援や、オーガニックやフェアトレード認証のサポートなど。また、CHPSというコミュニティベースの簡易医療施設立ち上げの活動も行っています。

REPORT 「2019五高記念館文化講座」を開催しました

伊東龍一 館長による講座の様子

五高記念館は、一般の方を対象に９月３日から10月８日まで毎週火曜日、「2019五高記念館文化講座」（全６回）を開催しました。

講座の内容は、アラン・ローゼン 五高記念館客員教授による「ハーンと猫」「ハーンと天文学」、村田由美 五高記念館客員准教授による「漱石と五高生」「漱石と修学旅行」、伊東龍一 五高記念館長による建築の角度から見た「漱石の家ー小説の家　熊本の家ー」、伊藤重剛 前五高記念館長による甲斐青萍の町並画をもとにした「明治の熊本を歩く」でした。

１講座約30人、合計186人の参加がありました。参加者からは、「新鮮な視点でおもしろかった」「いろいろな面からの研究があることがわかった」「ユニークな企画でよかった」などの感想が寄せられました。

今後も同講座を開催していく予定です。

REPORT インドにて研究交流プログラムを実施しました

大学院社会文化科学教育部と法学部の学生が、９月８日（日）から20日（金）にかけて、インドにて研究交流プログラムを実施しました。

本プログラムは、グローバルな視野と行動力、異文化の価値観への理解力及び国際的対話力を備えた人材の育成を目的とし、大学院生と学部生合わせて10名が参加しました。アミティ大学、インド最高裁判所、デリー家庭裁判所及びデリー弁護士協会を視察し、裁判官と弁護士との座談会を通じてインドの司法システムやリーガルサービスについて学びました。また、インド独立の父と呼ばれるガンディーの旧居、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの家、アジア人初のノーベル賞となるノーベル文学賞を受賞した詩聖タゴールの生家など、インドの偉人のゆかりの場所や世界文化遺産を訪問し、インドの歴史、宗教及び文化について理解を深めました。

釈迦牟尼が悟りを得た菩提樹の聖木の下にて

REPORT ダイビング部が中村征夫・中村卓哉写真展のボランティアスタッフとして活動しました

「ザトウクジラの親子」の前でダイビング部と中村征夫さん

９月21日（土）から10月27日（日）まで、中村征夫・中村卓哉写真展「永遠の海・海中２万7000時間の旅」が熊本県立美術館で開催され、ダイビング部がボランティアスタッフとして活動しました。

ダイビング部は、来館者に海の魅力を伝えながら、中村さん親子の作品の展示作品に学びました。特に、征夫さんのメインの作品である「ザトウクジラの親子」の写真は、横幅が18mもある圧巻の作品でした。また、征夫さんがトークショーで語った「生き物たちの表情を撮るように心がけている」という言葉がとても印象に残ったそうです。

他にも、征夫さんが「ジンベイザメに驚いて気絶しながら撮影した」と語るジンベイザメの写真や、辺野古の大自然のストーリーを感じる卓哉さんの「辺野古ー海と森がつなぐ命」の展示など、日本を代表する水中写真家の撮影裏話を聞くことができ、大変貴重な経験ができました。

REPORT 「さくらサイエンスプラン」でミャンマーの学生15名が来学

大学院先端科学研究部では、11月2日（土）から4日（月）にかけて、科学技術振興機構（JST）が実施する交流事業である「さくらサイエンスプラン」により、ミャンマーのヤンゴン工科大学等から15名の学生と3名の教員を招待しました。

参加者は、熊本大学、宮崎大学、九州電力株式会社などを訪問し、日本の電力設備や電力制御技術、最先端の電気エネルギー分野の研究について学びました。また、グループディスカッションや交流会を通して本学学生との交流を深めたり、雄大な阿蘇の景観や文化にも触れたりして、参加者からは大変有意義だったとの感想が述べられました。

大観峰での集合写真

REPORT 産学連携科学技術相談会を開催しました

講演をする松本理事

10月25日（金）に、産学連携の促進を目的として、首都圏の企業等を対象とした「産学連携科学技術相談会（金属・材料及び化学分野）」を東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター内の熊本大学東京オフィスで開催しました。

今回の相談会は、本学の世界最高水準の研究・科学技術に触れて、企業のニーズ、課題解決、そして新たな実用研究の開拓に役立つよう、金属・材料及び化学分野に限定して関係企業等に参加を呼びかけました。

研究・地方創生担当の松本泰道理事から、開会挨拶と「最新の酸化グラフェン研究事情」の特別講演があり、続いて、工学部材料・応用化学科の山崎倫昭学科長・國武雅司副学科長から、それぞれ金属・材料分野、化学分野の研究について紹介がありました。その後、情報交換会として企業からの技術相談を行い、盛況のうちに終了しました。

REPORT 学生支援室FD・SD講演会を開催しました

学生支援室では、障がいのある学生に対する合理的配慮について知識を深めることを目的として、昨年度から講演会を開催しており、10月30日（水）に「大学として、そしてー教職員として：何を、どうしたらよいのか？～合理的配慮の実践を考える～」を開催しました。

講演会には、学内外の教職員・スタッフ67名が参加し、学生支援室の井上寛子特任助教による熊本大学における障がい学生への支援状況についての報告に続いて、長崎大学障がい学生支援室「アシスト広場」のピーター・バーニック助教による合理的配慮の実践についての講演があり、大学として、教職員として、それぞれの立場でできること、また、試験や実習等の場面における合理的配慮実践の具体例の紹介等がありました。

参加者からは、具体的な事例紹介がとても分かりやすく、参考になったとの感想がたくさん寄せられました。

なお、講演会場では、情報保障として熊本大学学生サポートサークルによる要約筆記（文字通訳）が実施されました。

講演の様子と要約筆記（文字通訳）する学生サポートサークル

REPORT 熊大病院ボランティア活動員の表彰式を行いました

10月16日（水）、熊大病院において「平成30年度活動にかかるボランティア活動員の表彰式」を行いました。

熊大病院では、日々ボランティア活動員の方が、外来患者さんの案内や車いすの介助、病棟図書室での受付や本の整理、小児病棟でのおはなし会や音楽会の企画などの活動を行っています。

表彰は、一年を通してボランティア活動を行った活動員の方が対象で、今回は11名の方が受賞されました。

表彰式に出席した５名の方に、谷原秀信病院長から感謝状と記念品等が手渡され、改めて日頃の活動への感謝の意が述べられました。会場は拍手に包まれ、和やかな雰囲気の中、式を終了しました。

REPORT キャンパスクリーンデーを実施しました

10月18日（金）に、キャンパス環境美化の一環として毎年10月の第３金曜日に実施している「キャンパスクリーンデー」を実施しました。

当日は、小雨が降る中、昨年度の参加者数を上回る学生・教職員約1,200人が参加し、担当のエリアに分かれて清掃作業を行い、約300袋分の落ち葉や雑草、ゴミなどを拾い集めました。

この清掃活動により、11月２日（土）から開催された大学祭では、きれいになったキャンパスで来学者を迎えることができました。

さらなるキャンパス環境美化の実現に向けて、来年度も引き続きキャンパスクリーンデーを実施する予定です。

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№48（令和元年８月１日～令和元年 10 月 31 日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約 14 億 3,036 万円（令和元年 10 月 31 日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和元年８月１日から令和元年 10 月 31 日までの間に入金を確認させていただきました個人 82 名、６法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

１. お名前・寄附金額の掲載

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※（　）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

＜熊本大学基金＞

【100 万円】　西田　治義（400）

【50 万円】　堤化学株式会社（710）

【16.5 万円】　岡島　寛（30.5）

【５万円以下】　井上　裕子（23）　久我　義隆（4.5）　村上　健太郎（13）　本島　昭男（23.5）　山内　典博（6）
吉本　英高（1）　熊本大学関西武夫原会（70.8）

２. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※［　］内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

＜熊本大学基金＞

赤塚　貴史［4］　井形　朋英［2］　大石　浩隆［2］　北原　隆司［2］　清田　信照　栗本　恵実　児倉　静二［8］　砂川　友美
高木　公康　竹熊　尚夫　塚本　憲明　遠山　栄二　馬場　秀夫［14］　林　良助［3］　原　陽子［4］　平田　修［2］
廣佐古　俊之　宮崎　卓［3］　八幡　英幸［3］　和田　秀雄
熊本大学医学部医学科後援会［10］　熊本大学医師会［2］

＜熊本地震復興事業基金＞

宮原　孝明［2］

３. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 51 名、２法人・団体等

REPORT 令和元年度熊本大学名誉フェロー称号授与式を行いました

10月1日(火)及び11月12日(火)に、Tony TAN Keng Yam氏(シンガポール共和国元大統領)、宮崎美子氏(女優)に熊本大学名誉フェロー称号の授与を行いました。

名誉フェローの称号は、本学に在学された方または勤務された方のうち、政治、経済、芸術、文化、スポーツ界等の各界において顕著な功績があった方等に授与するものです。

当日は、学長から称号が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

Tony TAN Keng Yam氏

宮崎美子氏

REPORT 令和元年度熊本大学卒業生表彰式を行いました

10月27日(日)のホームカミングデー当日、令和元年度熊本大学卒業生表彰式を行いました。この卒業生表彰は、平成24年度からスタートした表彰制度で、熊本大学の発展または社会からの理解促進につながる顕著な功績があった卒業生を、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第８回となる今回受賞となったのは、武夫原会(文・法学部同窓会)４名、教育学部同窓会２名、理学部同窓会２名、熊杏会(医学部医学科同窓会)１名、薬学部同窓会３名、工業会(工学部同窓会)４名、医学部保健学科同窓会１名の計17名で、それぞれの分野で顕著な功績を挙げられた皆様や、同窓会活動にご尽力いただいた皆様です。表彰式においては、原田学長から祝辞が述べられました。

REPORT 附属小学校創立145周年記念祝賀会を開催しました

創立145周年を迎えた熊本大学教育学部附属小学校は、11月9日(土)にANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて記念祝賀会を開催しました。尾池雄一同窓会会長(大学院生命科学研究部教授)、井福裕俊校長(大学院教育学研究科 教授)の挨拶で幕を開けた本会には、古島幹雄副学長、八幡英幸教育学部長をはじめ、来賓の皆様や同窓会役員、同窓生、旧職員など300名に迫る参加がありました。

この他、記念事業としてドローンによる校舎・運動場の空撮、記念タオル・キーホルダー・クリアファイルなどの制作を行いました。次の大きな節目である150周年に向けて、どの記念事業も有意義なものとなりました。

REPORT 熊本大学病院地域医療支援センターの後藤理英子特任助教が第８回西予市おイネ賞を受賞しました

11月30日(土)に愛媛県西予市で開催された第8回西予市おイネ賞事業表彰式において、後藤理英子熊本大学病院地域医療支援センター特任助教が全国奨励賞を受賞されました。

愛媛県西予市、日本医師会、愛媛県医師会が主催する同事業は、シーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、現代女性の活躍推進や地域の活性化を図ることを目的としており、その志を継ぎ医学研究や医療活動に活躍する女性を対象に表彰・激励されているものです。

後藤特任助教は、子育てをしながら臨床・研究の仕事を継続し、また、その経験を活かして熊本県女性医師キャリア支援センターや熊本大学病院において男女共同参画を推進しています。女性医師・女性研究者が能力を発揮できるための環境づくりに尽力しているこれらの業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。

第8回西予市おイネ賞受賞者(左が後藤特任助教)

INFO 埋蔵文化財調査センター特別展示「黒髪のむかし展」を開催しています

現在、埋蔵文化財調査センターでは、黒髪キャンパスの遺跡の発掘調査成果を公表する特別展示「黒髪のむかし展」を開催しています。展示では縄文時代、奈良・平安時代、近代の３つの時期の遺物を公開しており、各時代の遺物や遺構について、写真やイラスト、模型を用いて分かりやすく解説しています。

11月８日(金)に開催した展示説明会には学内外から20名の参加がありました。参加者からは「黒髪の歴史を楽しく学ぶことができた」などの感想が寄せられました。本展示は令和２年４月30日(木)まで開催しています。

【開催期間】令和元年11月1日(金)～令和2年4月30日(木) 9:00～17:00
【休館日】土曜・日曜・祝日・12月28日～1月3日
【場所】埋蔵文化財調査センター１階展示室（黒髪南地区 衝撃実験棟東側）
【参加対象者】一般・教職員・学生
【参加費】無料、事前申込不要
【問い合わせ先】埋蔵文化財調査センター
TEL:096-342-3832　E-Mail:maibun@jimu.kumamoto-u.ac.jp

INFO シンポジウム「熊本地震による被災文化財の保存・活用の現在」を開催します

熊本地震では地域の歴史的建造物も大きな被害を受けました。熊本大学の赤れんが建築群の復旧状況の報告とともに、熊本県下の文化財建造物の復旧状況と保存・活用への取り組みについて、講演・シンポジウムを開催します。

【開催期間】令和２年２月22日(土) 13:00～16:30
【場所】熊本大学工学部百周年記念館
【参加対象者】どなたでも
【参加費】無料、事前申込不要
【問い合わせ先】熊本大学五高記念館
TEL: 096-342-2050　E-Mail: goko@kumamoto-u.ac.jp
【URL】http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp